

定期戦に思う

「臥薪嘗胆」は 築高生が 背負う 宿命

第58回の築館高校と古川高校の定期戦が、築館高校を会場に開催されました。前日午後からの強めの雨でグランドコンディションの悪化が心配されましたが、夕方には雨雲が抜けて、朝には、ちょうど良い湿り気の状態、戦いの場の準備が整いました。

開会式の挨拶で私は、

◎これまで諸先輩方が残してきた数々の名勝負に今日これからの試合を加えよう。

◎長い歴史と素晴らしい伝統を持つ両校の存在を互いに認め合い、敬い、高め合う対戦にしよう。

と呼びかけました。

古川高校の生徒会長からは例年のごとく、「山猿」と罵る発言があったにもかかわらず本校千田吏嬉生徒会長は、まったく意に介さず、互いの健闘を呼びかけた対応は、品格を感じ、相手の挑発に乗らないこのような対応で、築館高校の格式の高さを示してくれました。

開会式直後は、統合後に対戦のない部活動同士の競技として始まった綱引きを行いました。男子、女子とも1勝1敗の接戦になり、男女ともに3本目で勝利し、さい先の良いスタートを切り、今年は勝利できると思わせるような順調な出だしでした。

その後、各会場に分かれての競技では、バドミントン女子が勝利したもののバレーボール女子、剣道が敗戦しました。

若柳の総合体育館で行われたバスケットボール、卓球でも劣勢が伝えられ、対戦が進むに従って、雲行きが怪しくなり、野球が0-1で敗戦したところで、全体での敗戦が濃厚になりました。

サッカーも0-2で敗戦し、結果は5勝8敗となり、古川高校の3連覇を許してしまいました。接戦の競技もありましたが、勝ちきることができず、あと2勝の壁は厚く感じられました。これで、15勝39敗4引き分けとなり、さらに差を広げられてしまいました。

1年生には、入学後厳しい応援練習に耐えてきたにもかかわらず、凱歌を歌わせてあげることができず、残念でなりません。

閉会式後の報告会では、各部の部長から試合の様子について説明があり、私からは、心の底から悔しいこと、しかし、下を向いてはいけないこと、築高生は、勝っても負けても「臥薪嘗胆」を背負って生きることが宿命であり、歯を食いしばってくやしさに耐え、何度もチャレンジしていく精神を持ち続けてほしいと話しました。

築館高校の目標は高く、どこまでも高みを目指すことです。古川高校という壁があるのであれば、それは必ず乗り越えなければなりません。

これから続く、支部総体、県総体で技を磨き、力をつけ、来年の定期戦での勝利を誓い合ひましょう。



「オダマキ：勝利への決意」